

「西湘・足柄地域の森林・林業の再生に向けて」報告書 概要版

おだわら森林・林業・木材産業再生協議会

1. はじめに

- 当該地域は、山・里・川・海が近接する地勢状況。
- 文化・歴史等を最大限に生かしつつ、地域に根ざした森林・林業・木材産業を再生していくことは、森林を中心とした経済活動の活性化のみならず、森林の公益的機能や、山から海につながる地域全体の生態系・環境の保全の観点からも、極めて重要。

2. 森林・林業・木材産業の全国的な動向等

- 農林水産省は平成 21 年 12 月に「森林・林業再生プラン」を策定し、「国家戦略プロジェクト」の一つとして森林の整備・保全に向けた取組や木材利用の拡大等を推進。
- 神奈川県では、水源環境税を中心として水源林の整備や、木材認証制度等の取組を推進。

3. 西湘・足柄地域における森林をめぐる状況

- 県西の 2 市 8 町の森林面積は全県の約 4 割占める重要な地域。
- 人工林への手入れが不足し、森林の粗悪林化や深刻な害虫被害も見受けられる。
- 良質材は、秦野市の原木市場において取引されるが、穿孔虫被害により、質が悪いものも多く、搬入が敬遠される傾向。

4. 西湘・足柄地域における森林・林業・木材産業のあるべき姿(地域林業の確立)

- 国や県の施策や市の計画に基づき、適切に森林の整備・保全を推進していく必要。
- 先行的に、地域マーケットの構築に向けた成功例をモデル的に示していくことが重要。
- 現在稼働している製材・加工業の体制を整えながら、現状施設の改良や新設、新たな加工施設の整備等も含め、検討を進めていく必要。
- 詳細な流通に係る現状分析とともに、消費側と生産側の双方からのニーズがマッチングする加工施設、供給拠点、サービスの在り方の検討が必要。
- 多様な主体による関わりが、多様な森づくりや木材流通、木材加工を生み出し、さらなる可能性を見出す。
- 質の選別を明確に図りつつ、産地認証や穿孔虫被害木の対応等品質の確保について検討を進めていく必要。
- 県西の 2 市 8 町で連携し、森林・林業・木材産業の取組を進めていくことが重要。

5. 木材利用の拡大に向けた課題と具体の方向性

- 一夜城トイレ、間伐材かまぼこ板、洋菓子の下板、木葉書等による間伐材の利用は、今後の木材流通の検討や木材利用拡大を図る上で、先駆的な取組である。
- 公共事業の実施の際には、地場産木材の利用や、地場産業の活用を条件とする等の仕組みの検討が必要。
- 木造の公共施設の整備や庁舎内等公共施設の木質化の積極的な推進は、木材利用に係る啓発のみならず、一般住宅への普及や木材需要の拡大には極めて有効。
- 公共事業における材木の確保については、流通が確保されるまでは、市の関与の下で、ある程度、原木や製材した材をストックすることが望ましい。
- 補助制度の検討をする際には、まず内装材に着目し、壁材や床材を中心に実証する必要。
- 木質バイオマスの他、端材や木端等の販路も含めて検討していくことが必要。

6. 地域ならではの木材ブランド化と木のある空間づくりに向けて

- 地域ならではの歴史と文化という資源を最大限に生かしつつ、多様な主体、多様な産業との連携の中で、森林・林業施策の展開、木材のブランディングを図ることが重要。
- 歴史や文化などの地域資源と木材とを連結させ、消費者に対して「物語性」を示していくことが重要。
- 「食」と「木材」など、他業種や他の産業とのコラボレーションは重要。
- 木材を、消費者に何かを提供するための一つの「ツール」として活用することも重要。
- まちなみや建築のみならず、ライフスタイルの中で、木を取り入れ、木の文化を浸透させていく取組など、木材利用に係るあらゆる可能性について検討する必要。
- 包括的な木材利用等に係る計画を示し実現可能なものからの計画的な着手が重要。
- 木材の使い方や職人情報など森林・林業関連情報等を広く消費者に提供する拠点が必要。

7. 次世代へ森を引き継いでいくための取組

- 担い手の育成をはじめ、子供の頃から木に親しめるような環境づくりや、木育等を通じた啓発活動を実施していく必要。
- 環境林の整備等を、多様な主体や産業と連携しながら実施していく必要。

8. 被災地の復興に向けて我々ができること

- 小田原の森林・林業の再生を図りながら被災地の木造施設の建設等を支援する「報徳の森プロジェクト」などにより復興支援を行っていく必要。